

日本戦略研究フォーラム（J F S S）主催の設立 10 周年記念シンポジウムに参加した。「戦後レジームからの脱却—安全保障戦略のかたち—」をテーマとして記念講演と防衛大綱見直しに直言と題して与野党の論客がそれぞれの主張を述べた。J F S S の季報に掲載されるとのことで熱心にメモった訳ではないので、以下述べる事項には誤認があるかもしれないが、感銘を受けた主張があったので、小生の理解をも付加しつつそれらについて述べたい。

1 記念講演

戦後レジームからの脱却と題して、安倍晋三元総理が約 40 分にわたり講演をされた。

2 防衛大綱見直しに直言

与党からは自民党前防衛大臣政務官、野党からは民主党長島昭久氏（海賊対処・国際テロ防止特別委員会理事、安全保障委員会委員）である。

残念ながら、自民党議員氏の話には特段の感懐はない。官僚的かな。彼に引き換え、長島氏の主張には頷ける面が多々あり、彼の主張を是非防衛計画の大綱の中に活かして欲しいものだと強く感じた次第である。

長島議員は、自衛隊は 3 つの空洞化に直面していると主張する。

3 つの空洞化とは、

- ① 自衛隊組織としての空洞化
- ② 戦力の空洞化
- ③ 日米安保の空洞化 である。

(1) 自衛隊の組織としての空洞化

警察予備隊発足以来、自衛隊の位置付けが未だに不明確である。位置付けの不明確さが、自衛隊に微妙な影を落としている。新たな任務が付加される度に、自衛隊に対しては、どこまで、何が出来るかを示しているが、是は明らかに警察機関に対する対応である。法的には自衛隊は未だに警察予備隊であると言わざるを得ない。

本来軍事組織に対してはネガリストを示すべきであるにも拘らず、自衛隊に対しては「これはしても良い、この権限は行使しても構わない」等と法的秩序が維持されている状況下での警察機関に対する任務付与である所謂ポジリストを示している。自衛隊に対する任務や行動については極めて抑制的に規制している。そうでないと自衛隊は暴走して何をするか解らないと言う大いなる誤解があるのだろう。

このような環境下に置かれている自衛隊は組織として十分に機能し得るのだろうか、疑問なしとはしない。

(2) 戦力の空洞化

周知のように冷戦終結後自衛隊の任務は拡大し、冷戦時代のように訓練をしておれば良いという状況ではなくなった。然しながら、任務拡大に対応して人員・予算・装備等が増強されたかという逆にも人員も予算も削減されてきている。基盤的防衛力の所々を摘み食いして、基盤的防衛力すら維持できないようになってきているようだ。

このような、ミッション・ファンド・ギャップ(mission・fund・gap)と言われる状況下で、部隊は限界に近づきつつある。いざと言う場合に、所望の能力を発揮し得るのだろうか。最新式の装備を駆使する為の十分な訓練時間も確保できない。ストレスが隊員や部隊の中に鬱積しているかもしれない。

解決策はmissionを減らすか、予算を増額するかしかない。現今国際情勢下でmissionを減らすと言う選択肢があるだろうか。解決策は明らかである。

(3) 日米安保の空洞化

4月5日の北朝鮮によるテポドンミサイル発射事案対応について、日米の軍事レベルの連携は良好であり、日米共同は深化したが、こと政治レベルとなると極めて問題である。

ゲーツ国防長官は、米国向けでないミサイルは撃ち落とさないと声明し、日本は集団的自衛権の従来からの解釈に縛られ米国向けのミサイルに対しては対処しないとしている。集団的自衛権の問題を解決しないと、日米同盟に亀裂を生じる可能性もある。

今回、北朝鮮に対して抑止が効かなかったのは、米国が何もしないということを見越していたからだろう。

集団的自衛権問題を解決すると共に、日本も自ら日米安保を補完し得る抑止力を保持して日米安保の全たきを期さねばならない。

3 終わりに

以上極めて概括的に述べたが、詳細は日本戦略研究フォーラムの季報(7月発刊予定)で確認して貰いたい。JFSSのURLは、<http://www.jfss.gr.jp/> であり、何れ掲載されるものと思う。

民主党にもこのような素晴らしい見識を持った人材がおり、嬉しい限りではあるが、彼等が党の中で埋没することなく、なし得れば党内議論をリードして民主党自体を変えて欲しいものである。過望かも知れぬ？